

畔田暁子

このたび海外研修助成を受けることができ、2010 年 7 月 11 日より 21 日まで、アメリカ合衆国ニューヨーク市を訪れました。本海外研修の目的は、図書館で実施されている子ども向けプログラムとその実施環境を見学し、図書館が提供するプログラムやサービスについて、スタッフにインタビューすることでした。主要訪問先は、2008 年にニューヨーク公共図書館本館地下 1 階にオープンしたチルドレンズセンターです。そのほか、5 つのニューヨーク公共図書館分館と、ブルックリン公共図書館本館も訪問しました。ニューヨーク公共図書館は、ニューヨーク市にある 5 つの区のうち、マンハッタン地区・ブロンクス地区・スタテン島を管轄しており、全 90 の図書館で成り立っています。ニューヨーク市のブルックリン地区を管轄するブルックリン図書館は、59 館で成っています。以下に、訪問先ごとの報告及び主なインタビュー内容を記載します。

チルドレンズセンター (Children' s Center)

ニューヨークマンハッタン地区 42 丁目に位置する本館 (Stephen A. Schwarzman Building) 地下 1 階のチルドレンズセンターは、子ども向け図書の蔵書数がニューヨーク公共図書館全館の中で最も多く、催される子ども向けプログラムも多様である。読み聞かせや映画鑑賞会、ブックディスカッションなどのほか、実験タイプのものや、自然科学について学びながら道具や模型を作るタイプのプログラムなどが定期的に行われている。センター内部には、手前に書架と閲覧スペース、コンピュータコーナーが配置され、書棚と扉の仕切りを隔てた奥には、多目的に用いられるスペースが設けられていた。大型テレビが設置されたこの空間は、普段は子どもたちが自由に使用しているが、プログラム実施の際は会場として使われる。コンピュータは 9 台のデスクトップ型が設置され、カタログ検索と予約用マシン以外はインターネットに接続されている。

見学したプログラムは科学実験タイプで、ナトリウム塩と糊を用いてスライムを作るというものだった。このプログラム対象年齢は、tween と呼ばれる 10 才前後である。40 人ほどの子どもが、パフォーマーと呼ばれるインストラクターを取り囲んで奥の部屋の床に座り、カラフルなスライムを作ってプログラム終了後には特製のイラスト入りカップの中に入れて持ち帰った。保護者同伴の子どももいたが、子どものみで参加することも可能である。プログラム時間は午後 3 時から約 50 分であった。

プログラム見学後、チルドレンズセンター担当司書のジョーンズさんとバードさんにインタビューを行った。インタビューで主に分かったことは次の三点である。

- ・子ども向けプログラムに関わる人数はプログラムによって異なる。図書館では約 30～40 人の異なるパフォーマーを雇っている。チルドレンズセンターでは、3 人の司書が子ども向けに定期的にプログラムを実行している。土曜日のプログラムの多くは、雇われたパフォーマーである図書館外のスタッフによって行われる。ボランティアが図書館のプログラムを行うことはない。
- ・通常約半年前からプログラムを企画する。早い段階でスケジュールに入れていく必要がある。
- ・プログラムの実施に際して最も気をつけていることは、子どもの安全とパフォーマーの能力である。

グランドセントラルライブラリー (Grand Central Library)

2009 年 4 月、マンハッタン地区 46 丁目にグランドセントラルライブラリーという図書館がオープンした。この図書館の 2 階奥に、” Teen Central ” というティーン世代向けのスペースが設けられている。ここでは夏休み中、ブックディスカッションやゲームなどのプログラムが行われ、学校がある期間には、

ティーンが望む本や映画、CD に関するリクエストを聞くプログラムなどが行われる。施設内には、資料の閲覧やコンピュータの使用ができるメインルームと、「コミュニティルーム」と呼ばれる部屋がある。主任司書のロザリオさんによれば、ティーン向けのプログラムは通常この部屋で行われる。メインルームには、デスクトップコンピュータが8台、貸出形式によるラップトップコンピュータが10台用意されており、全てインターネット接続が可能である。また、CD プレイヤー等の音楽機器も複数台用意されていた。ティーンセントラルは、中高生も気軽に友だちと立ち寄れる、複合施設として機能する日本の「児童館」のような空間であった。

その他訪問した分館、およびリーディングルーム (Reading Room)

ニューヨーク公共図書館の多くの分館では、子ども向けプログラムを実施している。滞在中、可能な限り訪問した。マンハッタン地区の67th、Riverside、Ottendorferの各館には、それぞれ子ども向けのスペースがあり、子どもやティーン向けのプログラムを実施するための独立した部屋が設けられていた。ブロンクス地区に2005年に設立されたブロンクス図書館 (Bronx Library) は、1階の約半分がヤングアダルト (以下 YA と記載) 世代、2階全体が子ども向けのスペースとなっていた。この図書館の司書によれば、ここで夏休みに行われる子ども向けプログラムはエンターテインメント性の高いものが多いが、学校がある期間には勉強を支援するプログラムが行われるという。コンピュータは8台のデスクトップ型が設置され、カタログ検索用と予約用マシン以外はインターネットに接続されていた。その他この図書館で斬新であったのは、YA 向けスペースの上部に設置された電光掲示板で、そこにプログラムやイベントを宣伝する文章が常に右から左へ流れていたことである。

その他、ニューヨーク市内の公園で行われていた「リーディングルーム」という読み聞かせのイベントを見学した。その日に登場した4人の朗読者の読み方が非常に巧みであった上、本に出てくる生き物に扮したり文章を完璧に暗唱したり読みながら絵を描いたり、プロの役者かと思うほど演出に凝っていたが、担当者は皆図書館スタッフであった。

ブルックリン公共図書館 (Brooklyn Public Library) 本館

YA サービスコーディネーターの司書ショウファーさんに、施設の案内と子ども及び YA 世代向けのプログラムについて説明を受けた。ここでは夏休み期間中、読み聞かせ、映画観賞、ゲーム、アート&クラフト等の子ども向けプログラムが行われている。来館する子どもの数は、学校がある期間よりも夏休み期間の方が多いそうである。この図書館は、ユース・ウィング (Youth Wing) という、非常に広い子ども及び YA 向けスペースを設けている。1階と、ロフトと呼ばれる中2階には合計40台以上のデスクトップコンピュータが設置され、16歳以下の子どものみが利用できるようになっている。1階および2階には、プログラムに使用するための部屋が個別に設けられていた。

本海外研修を通して、公共図書館が提供するサービスは、直接学習や勉強の成果を求める類のものではなく、むしろ利用者の心地よさを創出する中で、社会環境や家庭環境、その他の学習環境などの要因と複合的に絡み合い、その結果間接的に子どもの多様な活動にはたらきかけるものなのではないかと考えた。ニューヨークで実施されている子ども向けのプログラム内容及びその環境設備は、日本において子ども向けサービスを提供する際にも、大いに非常に参考になると考えられる。

謝辞 今回、大変貴重な経験を得ることができました。このような機会を持てましたこと、図書館情報メディア研究科と茗溪会支部橋会の皆様、そしてお世話になった皆様に心より感謝申し上げます。